

3 小学校の歯科保健指導における講話の理解度および咀嚼力の比較

鈴木パーマー紀子, 本間和代, 天池千嘉子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 小学校, 歯科保健指導, 講話理解度, 咀嚼力

はじめに

新潟市立某小学校は平成21・22年度に(社)日本学校歯科医会の指定を受け「生活習慣予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業」を展開してきた。本学も協力大学として歯科保健指導を担当し、一定の成果を上げてきた。本事業終了後も学童の歯科保健向上の取組みを継続したいとの学校の要望を受け、本科3年生による歯科保健指導を実施した。内容は学年別歯科保健講話やブラッシング・フロッシング指導、咀嚼力テストなどである。次期指導の参考にするため、講話前後の理解度および咀嚼力測定結果の前年度との比較を試みたので報告する。

対象および方法

対象は新潟市立某小学校1～5年生および特別支援学級の計355名である。平成23年9月20日に学年別テーマに基づき、クラス毎の歯科保健講話を行い、その前後における内容の理解度等についてアンケートを実施した。その後、口腔清掃指導を行い、さらに、2～5年生に咀嚼力テストを実施し、同一児童の前年との比較を行った。

結果および考察

1. 歯科保健講話の内容と理解度

講話テーマは、1年：歯はどこがよごれやすい？－第一大臼歯をまもう－、2年：良くかんでたべることの大切さ、3年：CO（シーオー）ってなに？－むし歯の進み方－、4年：歯肉炎ってなに？である。講話の理解度は図1に示す通り、1・2年は講話前・後の理解度にあまり大きな差は見られなかった（1年は11%、2年は10%アップ）。3・4年は講話前後の理解度に大きな差がみられた（3年は63%、4年は70%アップ）。これより、「歯の汚れ」や「良くかんでたべる」ことに対する知識はあるが、「CO」や「歯肉炎」については、

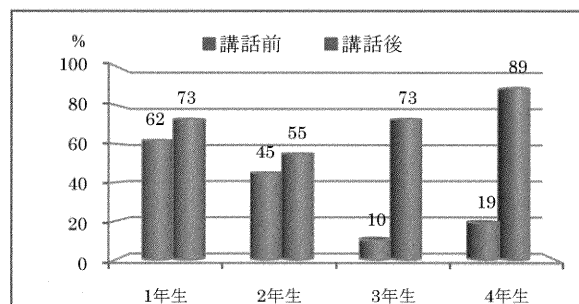


図1. 歯科保健講話前後における理解度の比較

学ぶ機会がないことが伺えた。また、講話時間の適否、媒体の良否、指導者の実力も影響すると考えられる。

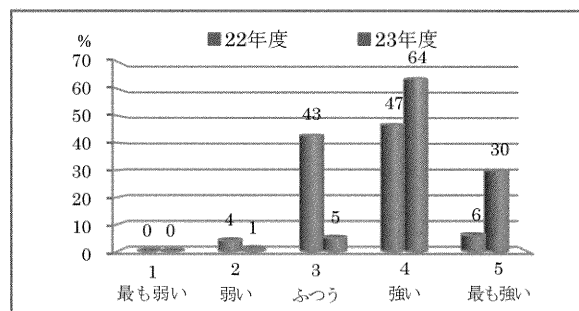


図2. 同一児童における咀嚼力の前年との比較

2. 咀嚼力判定結果

昨年と比較して児童の咀嚼力は判定基準5が24%増加した。これは、先の事業において栄養士と連携した「固い食品を良くかんで食べる」習慣づくりの成果が上がったものと考えられる。

まとめ

歯科保健講話における3・4年生のテーマは、日頃、学ぶ機会の少ないことが伺え、理解度の効果が大きかった。同一児童の咀嚼力については、前年に比較し判定基準5（もっとも強い）が24%増加し、全体的に咀嚼力の向上がみられた。